

UFB 水（ウルトラファインバブル水）の 耐菌・耐ウィルス性の検証

2020/03/10

実験期間：令和1年11月～令和2年3月

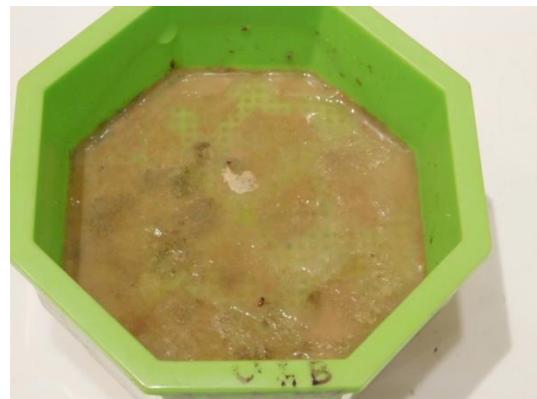
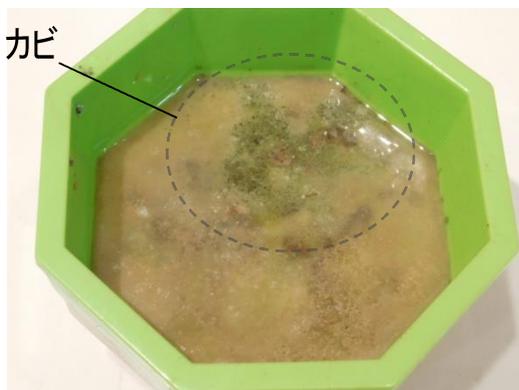
実験目的：イチョウの果実である「銀杏」は腐敗しにくく、土の中の細菌やウィルスの働きで果肉を腐敗させ、食用にする種の部分を摘出し乾燥させ、「ぎんなん」として市場に出される。

これを利用して、水道水と UFB 水の耐細菌・耐ウィルス性の比較検証を行う。

実験方法：水道水と UFB 水を満たした2つの容器にぎんなんを入れ、腐敗プロセス期間約4ヶ月後の様子を比較する。

実験結果

A. 表面の状態 4ヶ月経過後



水道水で浸漬の表面（カビ多し）

UFB 水で浸漬の表面（カビ無し）

B. 透明度（腐蝕度）4ヶ月経過後



水道水で浸漬の透明度（菌発生多い）



UFB水で浸漬の透明度（菌発生少ない）

C. 使用した UFB 水

「3DP 製のナノエスプーマ」5気圧 125倍濃縮液である。

D. 考察

UFB 水（ウルトラファインバブル水）は水道水に比べて、腐敗が進みにくい。

細菌やウイルスに対して、耐性を発現する可能性があることが確認された。

今後この点におけるより詳しい研究・観察が求められる。

以上